

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立国語研究所

平成 24 年度業務の実績に関する外部評価報告書

国立国語研究所 外部評価委員会

平成 25 年 6 月 25 日

目 次

はじめに	1
1. 評価結果報告書	2
1. 平成 24 年度「組織運営」及び「管理業務」に関する評価結果.....	3
2. 平成 24 年度「共同研究プロジェクト」に関する評価結果.....	5
2. 資料	7
1. 国立国語研究所外部評価委員名簿	8
2. 国立国語研究所外部評価委員会規則	9
3. 国立国語研究所平成 24 年度外部評価委員会（第 1 回）議事次第	11
国立国語研究所平成 25 年度外部評価委員会（第 1 回）議事次第	12

はじめに

国立国語研究所は、国語に関する総合的研究機関として1948（昭和23）年に創設されました。以来、独立行政法人を経て、2009（平成21）年10月1日に大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所となり、活発な活動を展開しています。新たに設置された国立国語研究所は、創設からの長い伝統の中で蓄積された研究を踏まえながら、日本語研究および日本語教育研究の国際的拠点として国内および海外の大学・研究機関と大規模な理論的・実証的共同研究を展開することによって日本語の特質の全貌を解明し、言語の研究を通して人間に関する理解と洞察を深めることを目的としています。また、共同研究の成果や関連する研究文献情報を広く社会に発信・提供し、様々な応用面に寄与することも重要な使命としています。

このたび、第二期中期計画の3年目という節目にあたり平成24年度の研究所における活動全般について、外部評価委員会による評価を実施しました。

外部評価委員会は平成24年度に委員を一新し、従来の5名から8名（言語学の専門家ではない有識者を含む）に増員することにより、評価の一層の充実を図る体制を整えました。この外部評価委員会により、研究所の組織運営および研究所の活動の根幹となる大規模な15件の基幹型共同研究プロジェクトについての評価結果として本報告書が作成されました。なお、領域指定型、独創・発展型、萌芽・発掘型の共同研究プロジェクト24件については自己点検報告書とヒアリングによる自己点検評価を実施しました。

われわれ国語研の教職員は、この報告書で示された評価結果を真摯に受け止め、研究者社会と一般社会からの幅広い御支援を支えに、私たちの財産である日本語を将来に引き継ぎ、発展させていきたいと思っています。

最後に、今回の評価に対する委員の皆様のご御尽力に対し、心から御礼申し上げます。

平成25年6月

国立国語研究所長

影山 太郎

1. 評価結果報告書

平成 24 年度の国立国語研究所の外部評価を次のように実施しました。

平成 24 年 12 月 27 日	国立国語研究所平成 24 年度外部評価委員会（第 1 回）
平成 25 年 2 月 9, 10 日	平成 24 年度共同研究プロジェクトヒアリング
平成 25 年 5 月 21 日	国立国語研究所平成 25 年度外部評価委員会（第 1 回）

その結果を以下の通り報告します。

外部評価委員会
委員長 樺山 紘一

平成 24 年度「組織運営」及び「管理業務」に関する評価結果

<組織・運営>

総合評価：

- ・研究・教育に関する目標もよく達成されている。特に、研究に関しては当初の目標を上回る実績が認められる。研究に関しては、日本語教育分野における国際的連携、教育に関しては、大学院教育の新たな展開に今後の期待が大きい。
- ・あえてここで強調するまでもないことだが、当研究所のミッションの最大のものは、日本語研究者のネットワークを効率的に構築することにある。日本語という主題は、多数の関係者の関心事であり、その知的エネルギーを有効に結集して取り組む必要がある。国内の研究者ばかりか、諸外国の研究者、また司書、アーキビストなどのコーパス利活用者や学生・大学院生など、多様な関係者との対話を必須のものと了解してほしい。

個別評価：

教育研究等の質の向上の状況

1. 研究に関する目標

- ・自己点検評価の結果は適切であると判断される。研究、学術情報の収集・発信に関する積極的活動とその成果が高く評価される。日本語教育分野においても、国際的連携が期待される。
- ・国際的研究交流、とりわけオックスフォード大学やマックスプランク研究所とのジョイントシンポジウムは、当研究所のみならず、多数の欧米・アジア諸国研究者の参加をも得て、予想以上の成果を収めたものと思われる。この経験を基礎として、国際出版への積極的な主導・参画にも取りくんできたい。この成果は、今後における当研究所および、わが国における日本語研究の質を決定することになるから。日本語研究の国際化の進展は、かならずや日本語それ自体の国際化を促すはずである。

2. 教育に関する目標

- ・自己点検評価の結果は適切であると判断される。大学院教育に関する新たな展開が期待される。
- ・連携大学院プログラムの充実はかなり困難な道であろう。一橋大学の件はともかくとしても、それ以外の多様な可能性を開発すべきだろう。そのためには、当研究所のプレゼンスを高め、組織的にも開かれた体質を整備してほしい。

<管理業務>

総合評価：

- ・中期目標・中期計画・年度計画に従い、日本語研究の中核機関としての業務を深く認識した改善・改革が行われている。機関としての機能強化、予算の柔軟な執行、研究環境の整備などについての成果が高く評価される。防災・安全対策には、一層周到な対応が望まれる。
- ・研究の国際性の進展・増強に伴い、管理業務にあっても、これに十分に対応しうる資質や体制

の整備にとりかかる必要があるだろう。直ちには言わぬまでも、数年先までには、それについての国内第一線に立つことを目指して、戦略的に行動してほしい。

個別評価：

1. 業務運営の改善及び効率化に関する目標

- ・自己点検評価の結果は適切であると判断される。年度予算の柔軟な執行、外部利用者の便を図る研究図書室の改善が特に評価される。

2. 財務内容の改善に関する目標

- ・自己点検評価の結果は適切であると判断される。省エネ・修繕経費などについては、可能な範囲でその結果・効果が記載されることが望ましい。
- ・とくに具体的なコメントではないが、科研費の申請および採択率の改善について、今後のポリシー設定を含めた、抜本的な検討を行っていただきたい。

3. 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ・自己点検評価の結果は適切であると判断される。日本語研究の中核機関としての役割が果たされつつある。

4. その他業務運営に関する目標

- ・自己点検評価の結果は適切であると判断される。立川断層の危険性が指摘されていることから、安全対策には一層の努力が必要と思われる。施設・設備の使用状況については、点検システムについて記載されることが望まれる。

担当： 樺山 紘一
林 史典

平成 24 年度「基幹型共同研究プロジェクト」に関する評価結果

国立国語研究所は第二次大戦後まもなく設立され、日本人のための「国語及び国民の言語生活に関する科学的な調査、資料の作成、公表」の活動を行ってきた。また 1970 年代に入り、国による外国人に対する日本語教育推進の動きに伴い、1974 年には本研究所に日本語教育部が設置され（1976 年に日本語教育センターに改組）、日本語教育研究および教師研修の活動が始まった。2009 年人間文化研究機構大学共同利用機関となつてからはこれらの活動を統合した国際的な視野での研究活動が求められる機関となつたと理解する。この枠組みにおいて、基盤型研究プロジェクトの活動を外部評価者が総合評価した結果、「年度計画を上回って進捗している」となつた。

良好な研究活動が認められ、高い評価を得たと考えられる。今回のヒアリングによって国内外の研究組織と理論的・実証的共同研究により日本語の特質を解明するとともに、応用研究による社会への還元が模索されてきたことが明らかになり、そのための研究基盤作りが徐々に功を奏していることが認められる。全評価者が高く評価したプロジェクトもある一方で、一部改めるべき点があるために総合して最高点には至らなかった。以下高く評価された点と改めるべき点について述べる。

特に高く評価されたのは日本語レキシコン、言語資源、言語類型論に関連するプロジェクトである。日本語レキシコンに関連するプロジェクトでは、音韻、文法、意味、形態的特性に関する広い領域を覆っており、国内外にわたる有機的な共同研究の連携および MOUTON 社などの言語学における有力出版社から研究成果を発表する準備が整えられたことなど海外への成果発信が高く評価できる。言語類型論研究でも国際的発信と共同研究の成果が高く評価された。この分野の研究は当研究所においては新しいものであり、外国人研究者を加えたことで新鮮な視点からの研究の萌芽が伺われ、今後の発展性を含むものとして期待される。

言語資源に関するプロジェクトでは、話し言葉コーパス構築以来蓄積されてきたノウハウに基づいて、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ) が構築され、その一般公開による利用の普及のための活動、さらには 100 億語コーパス開発および通時コーパス構築の着手、文理融合型の若手研究者の育成など目覚ましい展開を行ってきた点が高く評価された。さらにこのプロジェクトにおいても海外の有力出版社から成果を出版する見通しとなつたことも高い評価につながつた。

現時点までに、話し言葉コーパス、現代日本語書き言葉均衡コーパスが公開された後、言語研究、自然言語処理研究においてコーパスを利用した研究が国内外で普及しつつあり、研究成果が出始めている。このような研究が浸透するためには、コーパスの利用方法の講習会などの普及活動とともに新しい研究手法を駆使する国内外の若手の研究者を養成することが強く望まれる。将来、通時コーパス、日本語学習者コーパスの構築が予定されており、さらに広い分野での利用が予測されることから、本研究所がコーパス研究の拠点となることが期待される。

他にも消滅危機方言調査研究は当研究所の長年の蓄積を継承しつつ、八丈島、与論島、喜界島など多地域での言語調査において重要な成果を上げつつあることが高く評価された。

日本語教育研究部門は、当評価年度に新任教授が赴任し、組織編成に着手したばかりであるが、学習者コーパスの構築をはじめ、本研究所の使命に沿う研究体制が確立されつつあることに期待している。

一方、改めるべき点としては、次のようなことがある。本研究所には鶴岡調査、岡崎調査などの豊かな研究成果の蓄積を活用する研究があり、言語変化の新たな理論構築につながる可能性がある。現在の調査研究体制におけるプロジェクト間の連携・交流をより有機的に展開するとともに、この調査研究の成果の意義をさらに一般に発信することが期待される。

若手研究者育成については、ポスト・ドクター研究員を受け入れ、指導することで研究成果をあげているプロジェクトもあるが、所内研究費から割ける人件費の充当は必ずしも容易ではないと思われる。例えばその方法として所内研究費以外の競争的資金の獲得が考えられる。実際に多くのプロジェクトリーダーは競争的資金を得ているが、予算を混合しない配慮をした上で、研究を活性化していけば、各プロジェクトの研究交流も拡大し、若手養成の資金ともなることから今後も競争的資金獲得にはさらに挑戦していただきたい。

担当： 仁科 喜久子

2. 資料

国立国語研究所外部評価委員名簿

- ◎ 樺山 紘一 印刷博物館館長，東京大学名誉教授，元国立西洋美術館館長
専門：フランス中世史
- 林 史典 聖徳大学言語文化研究所長，筑波大学名誉教授，元筑波大学副学長
専門：日本語史
- 仁科 喜久子 東京工業大学名誉教授
専門：日本語教育，コーパス言語学
- 門倉 正美 横浜国立大学名誉教授，日本語教育学会副会長
専門：日本語教育
- 後藤 斉 東北大学大学院文学研究科教授
専門：コーパス言語学
- 渋谷 勝己 大阪大学大学院文学研究科教授，日本学術会議連携委員
専門：日本語方言
- 早津 恵美子 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
専門：日本語文法，意味論
- 峰岸 真琴 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
専門：東南アジア言語学

任期：平成24年10月1日～平成26年9月30日（2年）

◎委員長 ○副委員長

国立国語研究所外部評価委員会規程

平成21年10月1日

国語研規程第7号

(趣旨)

第1条 この規程は、国立国語研究所組織規程第7条の規定に基づき、国立国語研究所（以下「研究所」という。）外部評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(任務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 自己点検・評価の結果に基づく評価に関する事。
- (2) 研究所の中期計画及び年度計画の評価に関する事。
- (3) 共同研究プロジェクト等の評価に関する事。
- (4) その他評価に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、10名以内の委員をもって組織する。

2 委員は、研究所の設置目的について理解のある学外の学識経験者等の中から所長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により決定する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 委員会は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聴取することができる。

(外部評価の実施等)

第8条 外部評価の実施は、研究所の中期計画及び年度計画の実施に関する評価の時に行うものとする。

2 委員会は、評価の結果を所長に報告するものとする。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、管理部総務課において処理する。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、外部評価の実施に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

国立国語研究所 平成 24 年度外部評価委員会（第 1 回）議事次第

日 時：平成 24 年 12 月 27 日（金） 11:30～13:30

場 所：八重洲富士屋ホテル 3F けやきの間

議 事：

所長挨拶

外部評価委員と研究所出席者の紹介、定足数の確認、配布資料確認

委員会の任務の説明・委員長の選出

委員長職務代行者の指名

研究所の概要説明

議事 1 第二期中期目標・中期計画・22 年度～24 年度計画と実施状況の説明

議事 2 平成 24 年度共同研究プロジェクトの説明

国立国語研究所 平成 25 年度外部評価委員会（第 1 回）議事次第

日 時：平成 25 年 5 月 21 日（火）10：30～12:30

場 所：八重洲富士屋ホテル 3F 紅葉の間

議 事：

定足数の確認、配布資料確認

議事 1 前回議事概要（案）の確認

議事 2 第二期中期目標・中期計画・平成 24 年度実績（研究、組織運営、管理業務）に係る評価結果の確認について

- ・基幹型共同研究プロジェクトの評価結果
- ・「組織運営」, 「管理業務」に係る評価結果

議事 3 第二期中期目標・中期計画・平成 25 年度計画について

議事 4 その他

- ・24 年度監事監査での検討事項について
- ・25 年度共同研究プロジェクト評価について